



# 浜っ子

発行 カトリック浜寺教会

高石市羽衣 2-2-27

TEL 072-261-1563

FAX 072-261-1594

2018年6月号 (2018.5.27発行)



## 私達の呼びかけ Our Call as Christian

ガル アルジャンタ ブブン 淳心会の神学生  
Bro. Galuh Arjanta Bubun, cicm

ウェンニ（自爆テロによる被害者の一人の女性）は、まだ体に医療器具が付けられたままの姿で、インドネシア・スラバヤ市にある無原罪の聖母教会の門で起こった爆破事件のために亡くなった二人の息子、エヴァン（11歳）とネイサン（8歳）に会うため、病院から葬儀場まで来ました。

彼女は葬儀の前に、最後に彼女の息子達に会うために、4時間だけ医師から外出を許されたのです。エヴァンとネイサンは先週の日曜日の朝（5月13日）に、スラバヤにある三つの教会で起きたテロ襲撃で、命を奪われた18名の犠牲者のうちの二人です。

Wenny—one of the survivors from a suicide bomb attack—still with some medical tools attached to her body, came all the way from the hospital in order to see her two sons, Evan (11yrs) and Nathan (8yrs), who both died because of the bomb that exploded at the gate of the Immaculate Mary Parish in Surabaya, Indonesia. She was only permitted by the doctor to go out of the hospital for four hours to see her sons for the last time before their funeral. Evan and Nathan are two out of the 18 victims who died as a result of the terror attacks that took place in three different churches in Surabaya last Sunday morning (13/5).

彼女は全身傷だらけの体の苦痛もかまわず、そして愛する子供を亡くした苦しみにもめげずに、しっかりと葬儀に集まった人々の前に姿を見せ、祈り、亡くなった息子たちに囁きました。「ママはあの人たちを赦しました。さようなら、私の息子達エヴァンとネイサン！」

Neglecting the physical pain that she was suffering from the wounds all over her body and face, not yet including her mental anguish and misery from the loss of her adorable kids, steadfastly she appeared in front of the people gathered, prayed and whispered to her lifeless sons, “Mama has forgiven them. Goodbye, Evan and Nathan, my sons!”

私は、そこで自分自身に尋ねます：「彼女の信仰からではないと、そのような強さはどこから来ましたか。」恨むことなく、彼女は、彼女の二人の息子を同時に神の手に渡すことができました。“赦す”という彼女の能力は本当にイエスの真の信仰を示しています。おそらく神様がなぜこの罪のない人々に、この悲劇を起こさせたのかという疑問に、ウェンニ、または誰であろうと答えは見出せません。しかし、ウェンニが教えてくれたように、私たちは常に、私たちの生活を神に委ね、神と神の民、そして私たちを憎む人をも無条件に愛するという、神の掟に従う方法を学ぶ必要があります。その掟を成就することは、クリスチャンとしての私達への呼びかけです。

I, then, ask myself: where does that sort of strength come from, if not from her faith? Without any grudge she was able to let go of her two of her sons into God's hands all at the same time. Her ability to forgive really shows her true faith in Christ Jesus. Perhaps, Wenny or even anybody else have no answer on the question why God let this tragedy happen to these innocent people. But as Wenny has taught us, we always need to learn how to entrust our lives to God and to follow his commandment i.e. to unconditionally love God and God's people, including the people who had wronged us. Fulfilling that commandment is our call as Christians.

多くの人が母の日を祝っていた瞬間、ウェンニは、彼女のことを“お母さん”と呼んでいた、彼女の二人の小さな天使たちを手放さなければならなかったのです。彼女の美しい物語は、私に同じように、息子の喪失を経験されたマリア様の物語を思い起こさせました。ウェンニとマリア様は、悲劇が彼女らを襲ったときに、神の意志を完全に理解することができなかったと思います。それでも彼女たちはすべてを神に委ね、神が栄光を示すようにされました。おそらくウェンニは、彼女の最愛の息子達を神に引き渡す苦しみと同時に、殺人犯を赦すという苦難の中で、マリア様の祈りを祈り続けたのではないかと思います。

「お言葉通り、この身に成りますように」 (ルカ 1:38)。

At the moment when many people were celebrating Mother's day, the same moment when Wenny had to let go two of her little angels who used to call her 'Mother'. Her graceful story simply reminds me about the story of Mother Mary who also experienced the loss of her son. Wenny and Mother Mary, I suppose, were not able to fully understand God's will when the tragedy struck them. And yet they entrusted everything to God, and allowed God to show His glory. I imagine, perhaps Wenny, while struggling to surrender her beloved sons to God and to forgive the murderers, she kept on praying Mother Mary's fiat:

May it be done to me according to your word (Lk 1:38).



## <美しくなりました！>

トイレ前の目隠し塀がリニューアルされました。  
竹の伐採から、細工まで、すべて手作りで。  
ありがとうございました。



## お知らせ

### <大阪教区再宣教150周年>

1862年、横浜にカトリック教会が建てられ、日本のカトリック教会再宣教となり、そして65年には長崎で信徒発見がありました。  
大阪教区では、68年にパリ外国宣教会のピエール・ムニクウ神父が、神戸に上陸し、再宣教を開始いたしました。

**再宣教150周年記念ミサ： 6月17日（日）14時～**  
**大阪カテドラル 聖マリア大聖堂**

- ・当日の典礼を使用しますので、リーフレットをご持参ください
- ・信仰宣言は新しい旋律の「ニケア・コンスタンチノーブル信条（2）」を使用します。  
楽譜のコピーは教会にあります。

### <教会内における緊急連絡について>

現在、教会の信徒台帳では、現住所しか把握しておりません。教会において、体調不良などを起されたときに、ご家族などに連絡の取りようがありません。  
万が一の時の連絡先をお聞きしております。（任意）  
用紙は聖堂にあります。

お一人で生活をしていらっしゃる方はもちろん、それ以外の方でも、家族に至急連絡を  
・・・とお考えの方は、**連絡先（なるべく携帯電話番号）**をお知らせください。  
このデータは、鍵のかかる場所に保管し、緊急時にのみ使用します。

### <ブロックを考える日>



日時： 10月8日（月・祝）

場所： 和歌山県の  
浦上キリシタン墓地巡礼

交通手段： 観光バス  
詳細は、後日お知らせします。  
予定に入れておいてくださいね。

いろんなことを  
やってみよう !!

# <第4回フェスタジュニーナ2018> (6月のお祭り) Festa Junina de Hamadeira em Osaka

## 6月17日 10時~16時



皆さん、  
一緒に楽しもう、遊ぼう、

Venham se divertir !!

クアドリーリャ (田舎のダンス) 踊りましょう!!

Vamos dançar Quadrilha !!

ブラジル料理      ビンゴ      宝くじ      音楽      バザー  
Comidas Típicas      Bingo      Rifa      Música      Bazar

6月の主日ミサ担当一覧	浜寺 9:30	和泉 9:30	岸和田 9:30
3日 キリストの聖体	ザベリオ会	村田(評議会) インターナショナルミサ	カルロス (評議会) インターナショナルミサ
10日 年間第10主日	カルロス (評議会) 11時マルコ (ポルトガル語)	ザベリオ会	村田
17日 年間第11主日	村田	カルロス	ザベリオ会
24日 洗礼者聖ヨハネの誕生	ザベリオ会	村田	カルロス 15時カルロス (英語)

◇毎週土曜日 19:30 主日前晩のミサ(和泉)

◇平日のミサ 浜寺： 火曜日 (毎週) … 9:00  
木曜日 (第2, 4) … 9:00  
金曜日 (毎月第1) … 9:30

和泉： 月曜日 (毎週) … 19:00  
金曜日 (毎月第1) … 9:30

岸和田： 木曜日 (毎週) … 9:00

◇ポルトガル語ミサ 毎月第2日曜日 … 11:00 (浜寺)

◇英語ミサ 毎月第3日曜日 … 14:00 (和泉)、第4日曜日 … 15:00 (岸和田)

◇インターナショナルミサ 毎月第1日曜 … 9:30 (和泉) (岸和田)

## 6月の各種集いの案内

- ◇聖書の分かち合い (Fr.村田) . . . . . 第1、3 金曜日 19:00 : 浜寺教会  
(第1は休み)
- ◇聖書の分かち合い (Fr.カルロス) . . . . . 第2、4 木曜日 ミサ後 : 浜寺教会
- ◇キリスト教講座 (Fr.カルロス) . . . . . 第1、3 土曜日 13:00 : 岸和田教会
- ◇「聖書100週間で読む」集い (Sr.ルイザ) . 毎週土曜日 14:30 : 和泉教会
- ◇キリスト教の勉強会 (Fr.カルロス) . . . . . 第2、4 金曜日 19:30 : 和泉教会

### 6月の奉仕者当番表

典礼奉仕について都合の悪い方は必ず典礼委員までご連絡ください。

	先 唱	子供侍者	第一朗読	第二朗読	奉 納	名札受付 共同祈願	掃除当番	お茶当番
	聖体奉仕							
3日						社会活動	高石	泉大津③
10日					ベトナム 青年	宣 教		堺②
17日						青少年	泉大津	
24日						広 報	堺	高石

※ 17日は、「フィスタ・エーナ」のため、お茶当番ありません